

「夢は無限大」という範囲指定

葛巻高等学校 二年 石角 珠乃理

「夢は無限大だ」この言葉を私達は耳にする。この言葉は私達若者が最も好み、最も嫌う言葉だろう。果たして夢は本当に無限大なのだろうか。

私は夢は無限大とは思わない。何故ならば、知らず知らずのうちに「夢はこういうものだ。」と定義づけているからである。

私達はさとり世代と呼ばれる世代である。さとり世代とは主に欲のない世代と言われている。「なぜ最近の若者は欲がないのか？」をテーマに特集されることがある。そんな時決まって引き合いに出されるのはバブル世代だ。時代背景を大きな理由として、好景気を知らない今の若者は夢や希望を抱くことが出来ないのだという結論で終わってしまうことが多い。

確かに今の若者が望む職業のランキングでは会社員が男女ともに上位に食い込んでいる。また会社からの独立を望む割合は以前に比べて減少傾向にある。独立することのリスクを考えると会社員として勤め、安定した生活を送る方が良いと考える人が多いのだ。

このようなデータを見ると多くの人は「今の若者は以前と比べて夢がない。」と言う。私はその意見に反対である。なぜ「将来は会社員になりたい。」と思うことが夢がないと区分されてしまうのだろうか。私はそれも立派な夢だと思う。夢は誰もが自由に抱けるものであり、目標であり、生きる原動力だ。夢のために人は自ら考え進むべき道を選択し行動する。それはある意味熱中していることでもあり生きがいでもある。

私の親戚に公務員を目指している人がいる。彼女の両親はどちらも足が不自由だ。彼女は両親を支えるために公務員になる道を選んだ。公務員になって家族を支えたい、それは立派な目標であり夢だ。現実的な職業を選択しているからといって「夢がない」と決め付けてしまうのはあまり乱暴な意見のように感じられる。

このように人々は無意識のうちに夢を決めつけ範囲指定しているのだ。「夢とはこういうものだろう。」という先入観の元作られる夢は無限大とは言えないと思う。人々の求める夢とは一体何だろうか。一般的に現実的ではないものや、就くのが難しいものが夢だと捉えられるがちである。小さな子どもが「宇宙飛行士になりたい。」と言ったとき「君は夢があるね。」と言うように。しかしその子供が成長したとき、そのような夢は容赦なく放棄される。「現実的ではないから」と。

「夢は無限大」と言いながら自分たちが思い描く範囲指定した夢を見ることを要求する。必要なのは夢に対する考えの柔軟性だと思う。夢がないと決め付けてしまうことが、既に夢を潰す行為であること、たとえ小さな目標でもあっても尊重されるべき大切な夢なのだ。